

動物ふぁいる No.62 生き物ずかん

かごしま水族館 アカオビハナダイ

【かごしま水族館 ☎226-2233 FAX223-7692】



桜島の麓から海に潜り、溶岩の岩場を降りていくと、林のように連なるムチカラマツというサンゴの仲間が見えてきます。そこにゆっくり近づくと、ひらひらと赤い花びらが舞っているかのように泳ぐ、アカオビハナダイの大きな群れが目に見え込んでいきます。水深10～112mに生息するハナダイの仲間で、生まれたときは全て雌ですが、大きくなると一部が雄になります。7～11月には、雄は繁殖期特有の鮮やかな婚姻色をまとい、雌の前で模様を見せるように泳いで求愛します。

日本や世界各地で見られますが、10～20mの浅場で大きな群れを見られるのは錦江湾だけだといわれています。桜島にはダイコンやミカンなどの名物が多くありますが、このアカオビハナダイも知る人ぞ知る桜島の名物なのです。



かごしまフォロワー かごフォロ

池田製茶(株) 代表取締役社長 池田 研太 さん

【広報課 ☎216-1133 FAX216-1134】



今月は、県内で初めて茶審査鑑定技術の最高位である「茶師十段」を取得され、現在も最前線で技術を磨き続けている池田研太さんにお話を伺いました。

鹿児島は、南は種子島・屋久島、北は北薩まで、特色豊かなお茶が生産されており、鹿児島茶市場では最盛期になると、一日で1500点ほどのお茶を品評できる全国トップクラスの茶産地です。多種のお茶を審査する経験の積み重ねが、いいお茶を見極める際の礎いしずえになっていると思います。

昨年、県内初の抹茶工場が完成。品質にこだわった茶葉を石臼で丁寧にひいて仕上げています。「鹿児島で抹茶？」とお客様にびっくりされることも多いので、鹿児島茶の潜在能力の高さとその魅力をしっかりとお伝えしています。

鹿児島茶産出額全国1位となり、ますます「お茶」といえば「鹿児島」が思い浮かぶようなイメージづくりが大事になってきます。煎茶の販売、抹茶の輸出はもちろん、新たなブランドコンセプトの店舗づくりや、健康・美容の分野で商品作りに挑戦するなど、これからも、鹿児島のお茶の魅力をさらに発信していくための一翼を担っていきたいと思っています。(インタビューの詳細は広報課フェイスブックなどでチェックを)



学芸員オススメ！ No.79 市立美術館の逸品

アンドレ・ドラ 『シャンブールシの風景』

【市立美術館 ☎224-3400 FAX224-3409】

古典に回帰したフォービズムの旗手

アンドレ・ドラは、20世紀前半に活躍したフランスの画家です。20代半ばの1905年、パリで開催された展覧会に出品した原色の作品により、マチスやヴラマンクとともに、強烈な色彩や大胆なタッチを特徴とするフォービズムの画家として一躍有名になりました。

その後もドラは、さまざまなジャンルの作品に挑戦しました。セザンヌや黒人彫刻に影響を受けたキュビスム的な作品や、ヨーロッパの伝統的な手法による古典主義的な静物・人物・風景画のほか、版画や本の挿絵、バレエの衣装や舞台装置のデザインなども手掛けています。1920年以降、彼はフランス画壇の中心的存在でした。

1935年ごろ、50代半ばのドラは、パリの西約25kmに位置するシャンブールシに移り住み、終の棲家ついですみかとしました。そのころ描かれた本作は、落ち着いた色使いで描かれた古典的な作風ながら、左側の木立とやや傾斜した大地、右側の落葉樹がつくる三角形の構図に、セザンヌからの影響もうかがえます。ドラはフォービズムから次第に離れ、古典主義的な作品を多く残すようになりました。



ひろばサポーターがゆく

ライカ イチキューニマル Li-Ka1920

【Li-Ka1920 ☎203-0682】

鹿児島のニューフェイス「Li-Ka1920」

中央町19・20番街区再開発ビルの商業施設として今年6月にグランドオープンした「Li-Ka1920」。県内一の高さ100mを誇る建物の中にあります。施設名の「Li-Ka」には鹿児島に来ること「来鹿」、鹿児島を好きになること「LIKE KAGOSHIMA」、鹿児島に暮らすこと「LIFE KAGOSHIMA」の3つの意味が込められ、「1920」は所在番地を表しています。



ファミリー層を中心に「日常の中でちょっといいことが見つかる」がテーマの施設内には、飲食店や服飾雑貨・家具家電など40店舗が入っており、9月にはもう1店舗加わる予定とのこと。

館内5階にある「ライカワークラウンジ」は、開放感に溢れた落ち着いたコワーキングスペース。デスク席にソファ席、グループ席など全87席あり、自分好みのスタイルで仕事することができます。また、同じ階には、大小さまざまな貸会議室のほか、450人が入る多目的ホール「ライカ南国ホール」もあります。普段はイベントなどを開催するホールですが、鹿児島市と協力協定を結んでおり、大規模災害時の帰宅困難者の一時滞在施設としても利用されます。400人以上を収容でき、飲料水・毛布・コンビニトイレなどが常備されているそうです。



さまざまな役割を兼ね備えた鹿児島のニューフェイス「Li-Ka1920」。今後、鹿児島中央駅周辺から鹿児島を元気に盛り上げていくでしょう。皆さんもぜひ、日常のちょっといいことを見つけに行ってみませんか？



ひろばサポーター
新宅